テスト期間が終わった後全裸で学生が校内を走り回るイベントがあった大学の話

都内にあるとある大学は、日本国内で唯一ヌーディズムを先進的に推進する大学として全国的に有名だった。創立理念に「身体の自然な解放」を掲げ、期末試験の最終日の最後の試験後には、恒例行事である「ネイキッドラン」が毎年大学図書館で開催される。これはアメリカにある姉妹校で行われている行事で、日本では唯一この大学でのみ伝統的に行われていた。

今年は過去最多となる228人が参加し、男子180人、女子も48人が参加するらしい。16時30分、図書館の入り口で一斉に全裸になると、図書館内全体を裸で駆け巡るランがスタートした。

とはいえ、やはり年頃の日本人の若者である。特に男子たちの視線は裸の女子たちの胸、おしり、性器に貪欲に絡みつき、女子たちはそんな視線を全身で感じ取りながら走っていた。試験のストレスを発散するという表向き爽やかなイベントは、実際は原始的で生々しい欲情の場へとなっていた。一部の男子たちは特に大胆で、女子の隣に並んで胸をガン見する者、後ろに下がってお尻を凝視しながらちんちんを硬く伸ばす者、すれ違う時に正面から女子の全裸を捉えようとガン見する者

など、たくさんの男子が全裸女子を楽しみに眺めていた。